

コラム ジャカルタで開催されたセミナーにおいて災害管理に関する研修講師を務めました

平成 27 年 9 月 28 日から 10 月 2 日の日程で、JICA 主催「災害管理のための衛星情報の迅速な入手及び有効活用能力開発プログラム」の研修がインドネシア共和国ジャカルタで行われ、ASEAN の 9 カ国から災害対応や危機管理担当部署の技術系職員 17 名(写真-1)が派遣参加しました。本研修では、JICA からの派遣依頼を受け、寒地河川チームおよび水環境保全チームが一部の講義で講師を担当しました。

研修の内容は、無償公開されている河川水理計算ソフトウェア(iRIC ソフトウェア)を用いて実践的な氾濫災害推定法や河道設計技術を習得するというもので、受講生自らが講義を受けながらパソコン操作を行うことで iRIC ソフトウェアの操作法も一通り習得できるものとなっています。当研究所が開発に関与した氾濫解析モデルの「Nays2D Flood」を用いた講義を担当することとなり、受講生にとってより身近で実践的な講習となるよう、氾濫解析の対象河川を ASEAN 諸国から選択し、インドネシア共和国アチェ川とミャンマーのミトハ川周辺域の氾濫解析(図-1)を取り扱うこととしました。特に、ミトハ川は平成 27 年 8 月に大規模な浸水被害が発生したばかりの河川です。このため、本研修に合わせて、両チームで一連の操作手順を示したチュートリアルを作成し、講義では、公開衛星情報の取得、加工、そして氾濫解析への活用について説明しました。最初は操作に戸惑う受講生もいましたが、丁寧に解説することで最終的には全員が氾濫計算の一連の手順を習得しました。また、氾濫解析演習の最後には、日本国内でインターネットを通じて一般に公開されているハザードマップを配布し、ハザードマップ作成の考え方、記載事項や頒布方法を紹介しました。受講者からは、「今回の研修で習得した技術を、母国での治水対策の検討や住民説明に活用したい」等の話を聞くことができ、参加者が自国で氾濫解析結果をどのように活用するのか、具体的なイメージを持っていただくことができたと感じています。

寒地河川チーム・水環境保全チームでは、平成 27 年には、インドネシア共和国以外にも、4月にタイ・バンコク、6月にアメリカ・コロラド、9月にペルー・リマで開催された講習会の講師を務めており、今後もこのような国際普及活動を進めて行く予定です。



写真-1 講習会場の様子

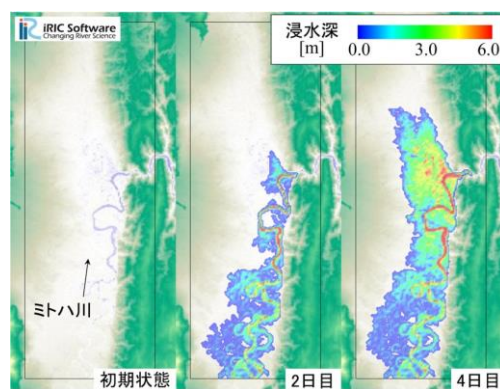


図-1 ミトハ川の氾濫計算結果